



2022年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年12月10日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 雄司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 2021年12月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年4月期第2四半期の業績(2021年5月1日~2021年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年4月期第2四半期	2,930	13.4	113	—	117	—	80	—
2021年4月期第2四半期	2,584	△17.8	△56	—	△7	—	△10	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年4月期第2四半期	4.76		—					
2021年4月期第2四半期	△0.62		—					

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年4月期第2四半期	6,481	5,803	89.5
2021年4月期	6,465	5,825	90.1

(参考) 自己資本 2022年4月期第2四半期 5,803百万円 2021年4月期 5,825百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2022年4月期	—	0.00	—	—	—
2022年4月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年4月期の業績予想(2021年5月1日~2022年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,270	8.6	285	2.7	285	△13.9	200	△11.3	11.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「会計方針の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年4月期2Q	17,464,000株	2021年4月期	17,464,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年4月期2Q	600,957株	2021年4月期	615,057株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2022年4月期2Q	16,852,391株	2021年4月期2Q	16,842,856株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料 4 ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、外出自粛や時短要請などにより経済活動は厳しい状況で推移した一方で、ワクチン接種の進展や緊急事態宣言の解除などにより個人消費の持ち直しが期待されるものの、依然として先行きの見通しは不透明な状態が続いております。

このような環境の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するフューネラル事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するフォトブック事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指す空中ディスプレイ事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

第1四半期会計期間より、メモリアルデザインサービス事業はフューネラル事業に、パーソナルパブリッシングサービス事業はフォトブック事業に、エアリアルイメージング事業は空中ディスプレイ事業にそれぞれ名称変更しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(フューネラル事業)

当事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により参列者の制限など葬儀の小型化が継続しているものの、葬儀の施行自体は正常化している状況です。そのような中、インサイドセールス機能の強化など営業体制の整備を進めるとともに、葬儀業界向けDXサービスの「tsunagoo」の機能強化やその普及、また、ピント修復ツールの活用による写真加工品質の強化などが奏功し、新規契約件数は順調に推移しました。その結果、主力である遺影写真加工収入が増加するとともに、動画等葬儀演出サービス売上が回復し、それに連動して額やサブライムの売上も増加しました。

利益面につきましては、展示会の出展により広告宣伝費が増加したものの、売上増加による売上総利益の増加が寄与し、セグメント利益は増加いたしました。

その結果、売上高は1,279,355千円（前年同四半期比111.1%）、セグメント利益は299,775千円（前年同四半期比119.7%）となりました。

(フォトブック事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、主力であるウェディング向け写真集は、依然として新型コロナウイルス感染症拡大による結婚式の延期などの影響を強く受けているものの、地方を中心に制限を設けてのウェディング開催が見られ、想定よりは回復しております。また、スタジオ向け写真集も堅調に推移し、売上は前年同四半期を上回りました。さらに、コロナ禍の環境に適応して、オンラインセミナーやオンライン商談、動画配信を充実させるとともに、等身大フォトコンテストやマタニティフォトコンテストの開催など市場の活性化にも努めてまいりました。

一般消費者向け市場については、旅行やイベントなどの自粛による撮影機会の減少により写真集ニーズが一時的に低下しており厳しい環境が続いております。OEM部門も同様の傾向であり、売上は前年同四半期実績を下回りました。このような中、工夫を凝らしたキャンペーンや効率的なプロモーションを実施してまいりました。

利益面につきましては、稼働率の回復により売上総利益が大きく増加し、また、販売費及び一般管理費を適切にコントロールした結果、セグメント利益は大幅に増加しました。

その結果、売上高は1,594,424千円（前年同四半期比115.6%）、セグメント利益は247,799千円（前年同四半期比308.7%）となりました。

(空中ディスプレイ事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指しており、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれを開発、製造、販売しております。

営業面につきましては、国内は自社営業を主として、海外は代理店を主として販売を推進しており、国内では設置案件や実証実験案件の実績を重ねております。海外は、活動が再開しつつあり、中国、中東、アメリカでの展示会出展をサポートしたほか、各エリアのニーズに応じた製品開発及び案件獲得支援を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症拡大により営業活動に一定の制約があるものの、ガラス製ASKA3Dプレートはサインージ用途に、樹脂製ASKA3Dプレートにつきましては、非接触操作を可能にする製品組込用途でのプレート販売を促進しております。

製造・開発面につきましては、ガラス製、樹脂製とも外製による生産の安定、歩留まりの改善への取組を進めており、特にガラス製につきましては設備導入によるコスト削減への取組を加速させました。技術開発センターでのガラス製ASKA3Dプレートの製造技術の開発・確立に向けて、小型プレートの試作を繰り返すほか、大型プレート生産へのチャレンジのためのスペースの拡大や製造設備導入を行いました。

売上につきましては、ガラス製ASKA3Dプレートの販売が増加したため、売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。まとまった数量の案件獲得が課題であると認識しております。

損益面につきましては、技術開発センターの本格稼働に伴い研究開発費が増加したため、セグメント損失は前年同四半期実績に比べ拡大いたしました。

その結果、売上高は57,123千円（前年同四半期比105.3%）、セグメント損失は170,851千円（前年同四半期は123,145千円の損失）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,930,849千円（前年同四半期比113.4%）となり、利益面につきましては、主にフォトブック事業においてセグメント利益が大幅に回復したことにより、経常利益は117,196千円（前年同四半期は7,313千円の経常損失）、四半期純利益は80,148千円（前年同四半期は10,459千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ15,955千円増加し、6,481,305千円となりました。これは主に、現金及び預金が140,833千円減少した一方で、商品及び製品が42,598千円、生産設備購入等により機械及び装置が109,656千円それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ38,138千円増加し、677,888千円となりました。これは主に、未払法人税等が34,500千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ22,182千円減少し、5,803,416千円となりました。これは主に、四半期純利益を80,148千円計上した一方で、剰余金の配当による減少117,942千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ259,166千円増加し、1,669,255千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は、320,279千円（前年同四半期は73,462千円の使用）となりました。これは主に、税引前四半期純利益116,439千円、減価償却費228,718千円、法人税等の還付額37,387千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果獲得した資金は、55,771千円（前年同四半期は104,674千円の使用）となりました。これは主に、生産設備購入など有形固定資産の取得による支出270,345千円を計上したものの、長期性定期預金の払戻による収入405,000千円を計上したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、118,306千円（前年同四半期は169,375千円の使用）となりました。これは、配当金の支払によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月11日に発表いたしました2022年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年4月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,815,088	1,674,255
受取手形及び売掛金	775,996	768,250
商品及び製品	220,028	262,627
仕掛品	99,800	134,753
原材料及び貯蔵品	86,770	76,973
その他	77,730	34,549
貸倒引当金	△4,218	△4,114
流動資産合計	3,071,195	2,947,293
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	929,317	932,225
機械及び装置(純額)	467,896	577,552
土地	844,060	844,060
その他(純額)	213,081	198,134
有形固定資産合計	2,454,356	2,551,973
無形固定資産	224,742	228,729
投資その他の資産		
投資有価証券	533,204	562,769
その他	181,849	190,539
投資その他の資産合計	715,054	753,308
固定資産合計	3,394,153	3,534,011
資産合計	6,465,349	6,481,305
負債の部		
流動負債		
買掛金	163,342	157,396
未払金	146,716	157,068
未払法人税等	15,400	49,900
賞与引当金	153,650	161,740
その他	154,012	145,921
流動負債合計	633,121	672,026
固定負債		
退職給付引当金	5,351	5,351
その他	1,277	510
固定負債合計	6,628	5,862
負債合計	639,750	677,888
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	614,322	619,556
利益剰余金	4,981,556	4,943,762
自己株式	△265,577	△259,489
株主資本合計	5,820,602	5,794,130
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,997	9,286
評価・換算差額等合計	4,997	9,286
純資産合計	5,825,599	5,803,416
負債純資産合計	6,465,349	6,481,305

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2020年5月1日 至2020年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2021年5月1日 至2021年10月31日)
売上高	2,584,234	2,930,849
売上原価	1,462,724	1,559,284
売上総利益	1,121,509	1,371,564
販売費及び一般管理費	1,178,063	1,258,030
営業利益又は営業損失(△)	△56,554	113,533
営業外収益		
受取利息	341	291
受取配当金	675	600
受取手数料	148	155
保険解約返戻金	32,600	—
助成金収入	14,615	—
為替差益	—	1,208
未払配当金除斥益	—	1,007
その他	1,582	400
営業外収益合計	49,962	3,662
営業外費用		
為替差損	722	—
営業外費用合計	722	—
経常利益又は経常損失(△)	△7,313	117,196
特別利益		
固定資産売却益	329	—
特別利益合計	329	—
特別損失		
固定資産売却損	—	708
固定資産除却損	2,313	48
特別損失合計	2,313	756
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△9,298	116,439
法人税等	1,160	36,291
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,459	80,148

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2020年5月1日 至2020年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2021年5月1日 至2021年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△9,298	116,439
減価償却費	188,750	228,718
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,073	△102
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,000	8,090
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△100,000	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△339	—
受取利息及び受取配当金	△1,016	△891
為替差損益(△は益)	681	△1,422
保険解約返戻金	△32,600	—
助成金収入	△14,615	—
固定資産売却益	△329	—
固定資産売却損	—	708
固定資産除却損	2,313	48
売上債権の増減額(△は増加)	70,328	7,746
棚卸資産の増減額(△は増加)	△30,861	△67,755
仕入債務の増減額(△は減少)	△21,774	△5,946
未払消費税等の増減額(△は減少)	△42,640	△7,851
その他	△20,261	4,012
小計	△11,590	281,794
利息及び配当金の受取額	1,341	1,098
助成金の受取額	9,060	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△72,273	37,387
営業活動によるキャッシュ・フロー	△73,462	320,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△405,000	△5,000
定期預金の払戻による収入	405,000	405,000
有形固定資産の取得による支出	△165,908	△270,345
有形固定資産の売却による収入	420	667
無形固定資産の取得による支出	△42,007	△41,328
投資有価証券の取得による支出	—	△27,492
保険積立金の解約による収入	108,887	—
貸付けによる支出	—	△882
貸付金の回収による収入	—	147
その他	△6,065	△4,994
投資活動によるキャッシュ・フロー	△104,674	55,771
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△168,554	△118,306
その他	△820	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△169,375	△118,306
現金及び現金同等物に係る換算差額	△681	1,422
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△348,192	259,166
現金及び現金同等物の期首残高	1,555,817	1,410,088
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,207,624	1,669,255

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

当第2四半期累計期間
(自 2021年5月1日
至 2021年10月31日)

(収益認識に関する会計基準)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、収益認識会計基準等の適用による当第2四半期累計期間の財政状態及び経営成績並びにセグメント情報に与える影響はありません。

また、収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2020年5月1日 至 2020年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,151,737	1,378,878	53,618	2,584,234	—	2,584,234
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	630	630	△630	—
計	1,151,737	1,378,878	54,248	2,584,864	△630	2,584,234
セグメント利益 又は損失 (△)	250,342	80,272	△123,145	207,469	△264,023	△56,554

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△264,023千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,279,355	1,594,424	57,069	2,930,849	—	2,930,849
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	54	54	△54	—
計	1,279,355	1,594,424	57,123	2,930,903	△54	2,930,849
セグメント利益 又は損失 (△)	299,775	247,799	△170,851	376,723	△263,189	113,533

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△263,189千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称について、メモリアルデザインサービス事業をフューネラル事業に、パーソナルパブリッシングサービス事業をフォトブック事業に、エアリアルイメージング事業を空中ディスプレイ事業にそれぞれ変更しております。当該変更はセグメント名称の変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報については変更後の名称で記載しております。